

29年7月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 7月1日～ 29年7月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		29/7月	8月	9月
入荷動向	スギ	25.0	20.0	20.0
	ヒノキ	12.5	0.0	12.5
	カラマツ	33.3	10.0	20.0
	トドマツ	0.0	0.0	25.0
消費動向	スギ	25.0	0.0	30.0
	ヒノキ	12.5	△ 12.5	25.0
	カラマツ	25.0	10.0	20.0
	トドマツ	0.0	16.7	33.3
在庫動向	スギ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 16.7	0.0	△ 16.7

・国産原木の入荷動向はスギ・カラマツは3カ月連続増加、ヒノキは7月の増加から8月は横ばい、9月は再び増加に。トドマツは7月、8月の横ばいから9月は増加に。

・消費動向はスギは7月の増加が8月は横ばい、9月は再び増加に。ヒノキは7月の増加が8月は減少、9月は再び増加に。カラマツ3カ月連続増加。トドマツは7月の横ばいから8月は、9月は増加に。

・在庫動向はスギ及びカラマツは3カ月連続横ばい推移。ヒノキは3カ月連続減少。トドマツは7月の減少から8月の横ばい、9月は再び減少に。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/7月	8月	9月
スギ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	0.0	0.0	0.0
カラマツ	16.7	10.0	20.0
米マツ	50.0	50.0	0.0
北洋カラマツ	50.0	50.0	33.3
その他	0.0	0.0	0.0

・合板用国産原木の購入価格動向は、スギ、ヒノキ、その他は保合い。

・カラマツ、米マツ、北洋カラマツは強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・8月は稼働日が少ないので消費は減少、9月より増加する。
・原木は生産に合わせ安定的に入荷。消費は7月の総生産量が増えたため増加。在庫は入荷した分は生産したため横ばい。
・消費動向は、スギとトドマツの消費量が増えてきている。
・今月からカラマツ合板を増産しているため入荷・消費ともに増量。
・時期的にスギ・ヒノキ材の入荷が増加傾向にある。消費・在庫ともほぼ横ばいで生産計画に添った消費。
・降雨の影響で入荷は減少すると思われる。8月以降も雨だけを心配している。消費は稼働日数で決まるので、8日は休みが増えるため減少する。在庫はスギを増やしていきたいがヒノキは減らしていく

(原木価格)

・国産カラマツは引き合いが多く価格上昇か。米マツ、北洋カラマツは今後さらに上昇。
・スギ・カラマツの価格は安定している。
・原木の購入価格は、国産材は横ばい。外材は円安と現地の在庫水準が低いいため、仕入れコストは上昇傾向。
・7月以降カラマツ原木の価格は上昇。ロシア材は変わらず強気調。
・スギ・ヒノキ・カラマツの約60%は9月まで横ばい。40%は変動あり。

29年7月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		29/7月	8月	9月
生産動向	構造用(9mm)	8.3	△ 10.0	10.0
	〃 (12mm)	21.4	0.0	16.7
	〃 (15mm)	0.0	△ 8.3	8.3
	〃 (24mm)	△ 7.1	△ 16.7	0.0
	〃 (28mm)	△ 7.1	△ 16.7	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	8.3	12.5	12.5
	〃 (12mm)	14.3	8.3	25.0
	〃 (15mm)	0.0	0.0	16.7
	〃 (24mm)	0.0	△ 8.3	8.3
	〃 (28mm)	△ 7.1	△ 8.3	8.3
在庫動向	構造用(9mm)	0.0	△ 10.0	△ 20.0
	〃 (12mm)	0.0	△ 8.3	△ 16.7
	〃 (15mm)	0.0	△ 8.3	△ 16.7
	〃 (24mm)	0.0	△ 8.3	△ 16.7
	〃 (28mm)	0.0	△ 8.3	△ 16.7

・構造用合板の生産動向は、9mmは7月の増加が8月は減少、9月は再び増加に。12mmは7月の増加から8月は横ばい、9月は増加に。15mmは7月横ばいから、8月は減少9月は増加。24mm、28mmとも7月、8月の減少から9月は横ばいに。

・出荷動向は、9mm及び12mmは3カ月連続増加。15mmは7月、8月の横ばいから9月は増加に。24mmは7月の横ばいから8月は減少、9月は増加に。28mmは7月、8月の減少から9月は増加に。

・在庫動向は、各品目とも7月の横ばいから8月、9月は減少に。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/7月	8月	9月
構造用(9mm)	0.0	0.0	0.0
〃 (12mm)	7.1	0.0	8.3
〃 (15mm)	0.0	0.0	8.3
〃 (24mm)	0.0	0.0	8.3
〃 (28mm)	0.0	0.0	8.3

・構造用合板の出荷価格は9mmは保合い。その他の12mm、15mm、24mm及び28mmは強含みに。

モニターからのコメント

(構造用合板の荷動き)

- ・生産は8月の盆休みにて全体に生産は減少。この間にメンテナンスを実施する。出荷は8月盆休み明けから引き合い増加傾向。
- ・総生産量が増えた分9mmと12mmの生産を増やす。出荷は9mm、12mmを中心に受注が多く、その分7月は出荷増。15mm、24mm、28mmは生産した分を出荷する。在庫は各品目で低水準。
- ・少量生産のため生産、出荷、在庫動向ともに変化なし。
- ・生産は生産計画どおり推移。出荷は24mmの増加が目立つ。在庫は低在庫で推移。
- ・発生状況に合わせての生産内容となる。出荷は12mmネダノンの引き合いは変わらず強い状態が続いており、中でもネダノンメーターサイズの引き合い増となっている。在庫は低水準のまま。

(構造用合板の価格)

- ・出荷価格は当面横ばい。今後、資材・運送費などが上昇すれば価格を上げざるを得ない。
- ・12mmは多少価格が上がる。12mm以外はほぼ横ばい
- ・構造用合板の出荷価格に変化なし。
- ・価格は横ばい、このまま様子見状態。